

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】令和4年12月8日(2022.12.8)

【公開番号】特開2022-177219(P2022-177219A)

【公開日】令和4年11月30日(2022.11.30)

【年通号数】公開公報(特許)2022-220

【出願番号】特願2022-150931(P2022-150931)

【国際特許分類】

H04N19/593(2014.01)

10

【F1】

H04N19/593

【手続補正書】

【提出日】令和4年11月30日(2022.11.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項1】

符号器の少なくとも1つのプロセッサが実行する方法であって、

ビデオ映像を符号化して復号器へ送信するステップを有し、当該方法は、更に、

前記少なくとも1つのプロセッサが、

前記ビデオ映像の映像シーケンスの複数の参照ライン間のイントラ予測によって、前記映像シーケンスの復号を実行するステップと、

前記複数の参照ラインのうち、前記イントラ予測の現在のブロックに最も近いゼロ参照ラインに対して、複数のイントラ予測モードを決定するステップと、

参照ラインインデックス値に基づいて、最確モードリストの長さを決定するステップと

30

、
前記複数の参照ラインに含まれる1つ以上の非ゼロ参照ラインのうちの1つに対して、前記最確モードリストに含まれる少なくとも1つの最確モードを決定するステップと
を含む方法。

【請求項2】

前記非ゼロ参照ラインについて、前記現在のブロックの最確モードインデックスがシグナリングされる、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記非ゼロ参照ラインのための前記少なくとも1つの最確モードが、最確モードリストに含まれ、

前記非ゼロ参照ラインのいずれか1つに対応する前記最確モードリストから、平面モード及びDCモードのうち、少なくとも1つが除外される、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記ゼロ参照ラインの前記最確モードリストの長さは、前記非ゼロ参照ラインの前記最確モードリストの長さと異なる、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記非ゼロ参照ラインのための前記最確モードリストの長さは、前記ゼロ参照ラインの最確モードリストの長さより1つ短い、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記ゼロ参照ラインに対する最確モードリストの長さは6であり、前記非ゼロ参照ライ

50

ンに対する最確モードリストの長さは 5 である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

コンピュータプログラムコードを記憶するように構成された少なくとも 1 つのメモリと

、前記コンピュータプログラムコードにアクセスして、前記コンピュータプログラムコードによって命令された通りに動作し、請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の方法を実行するように構成された少なくとも 1 つのハードウェアプロセッサと
を備える装置。

【請求項 8】

コンピュータに請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の方法を実行させるためのコンピュータ・プログラム。 10